

学校だより



令和4年6月30日
横浜市立二谷小学校
校長 矢島 孝幸

「価値ある教育活動」

学校長 矢島 孝幸

今年、想定外の早い梅雨明けとなりました。暑さが厳しくなった昨今とは言え、6月末でこの暑さは、私自身も経験がありません。まるで、夏休みに入った時期のような感じがします。熱中症対策を十分に行い、安全な教育活動を進めてまいります。これまでは、コロナ対策としてマスクの着用を徹底してまいりましたが、熱中症対策として屋内外で運動をする時や休み時間、登下校中はマスクを外すよう声をかけています（外した時の感染予防についても声をかけています）。子どもたちにとって、マスクは体の一部になったようで、自主的にマスクを外す子どもはほとんどいません。無理やりマスクを外させることはしませんが、ご家庭でも適宜お声かけいただけるとありがたいです。熱中症対策とコロナ対策を並行して進めていくことに難しさを感じておりますが、子どもたちの安全・安心と健康に留意しながら、今後も教育活動を進めてまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

学校の教育活動も、少しずつ以前に近づけております。3年ぶりに全学年が水泳学習を行っております。安全面の配慮を最優先して、児童の現状に応じた学習内容に編成し直して取り組んでいます。避難訓練では、全校児童が校庭に避難する訓練を行いました。私は、二谷小へ着任して初めて全校児童を目の前にして話をしました。私にとっては、とても感動した場面でした。朝会も全校児童を集めて行う計画を立てておりました。ただ、雨天と厳しい暑さという天候のため、テレビ朝会にしました。健康教育の推進に向けて、長なわ大会に向けた活動を行っています。全校を二分割して体力向上タイム（ロング昼休み）を行っています。休み時間に長なわを行っているクラスがたくさんあり体力向上への期待が膨らみますが、これから暑くなると実施できるかが心配です。音楽の授業では、隣同士の距離をしっかりとって合唱を行っています。もちろんマスク着用での歌声ですが、生き生きと笑顔で歌っている子どもの姿に感動します。全ての活動がコロナ以前のようにできるわけではありませんが、子どもにとって価値ある教育活動ができる範囲で進めていきたいと思っております。安全と安心を保障して、子どもたちのキラキラとした眼差しをたくさん引き出せる教育活動を全教職員で目指していきます。

児童会活動の一環で「あいさつ運動」を行いました。運営委員会の児童が登校時に元気なあいさつを率先して、全校にあいさつを広げてくれました。子どもたちのあいさつに対する意識が高まったことが、クラスでの振り返りやアンケート結果から分かります。給食室から職員玄関にかけての廊下にクラスごとの振り返りを掲示してあります。ぜひご覧ください。現在は「つながり郵便」の活動を行っています。同学年・異学年の友だちやペア学年の友だちに手紙を書く活動です。仲間との『つながり』を実感することで安心感を抱いたり、手紙のやり取りを通して自尊感情につながったりすることを願っています。これらの児童主体の活動によって、子どもたちの活気が満ち溢れる学校となることを期待しています。

さて、「つながり郵便」で私も数通の手紙をもらいました。どの手紙も魔法をかけられたように心地よい気持ちと元気・やる気を引き出してくれました。その中のひとつを紹介いたします。

『こんにちは。いつもありがとうございます。わたしは学校が大好きなので、学校に行くのを楽しみにしています。』 こんな素敵な思いを伝えてくれる二谷小の子どもたちに感謝いたします。

もうすぐ夏休みです。長期休業だからこそできる価値ある体験を十分に楽しんでほしいです。